

●會費領收

大正元年度分

江崎 やす 貴田 なほ 三輪田 秀

大正二年度分

三輪田 秀 白鳥 寛 富岡 きぬ  
井淵 英 島津 みち 田中 元惠  
土屋 つね 青山 ハナ 伊地知 あぐり

六十六

大正三年度分

井淵 英  
村田 よしを 江崎 やす 貴田 なほ  
半田 たま 清水 俊尾 今泉 うた  
本多 ひさし 穂積 ぎん 江口 折江  
なほ會費未納の御方は早速御送金相成度願ひ上  
げ候。(本校内研究科 竹田みち宛にて)



◎母校たより

○九月

六旬の休暇も終はれば、ここに十一日、始業式は擧げられて、我江山の洵美に酔ひし數百の游子は再學窓の下に孜々勉學の人たるべく相成申候。この席上、吉田熊次先生と告別のこと有之候。校を擧げて崇敬措かざりし先生の今や母校を去りて世界漫遊の途に上られむとする事は

佛國の富豪カーン氏が志に出づ。私情忍びずと雖、博識達見の先生が世界の平和のために貢献せられむことの必ず多大なるべきを思へばまた自ら慰むるところ可有之候。加ふるに後任としては深作安文先生を迎ふるあり、我等は安んじて道徳に對する立脚地をもとむべく候。なほ本學期に入りて体操に高橋先生を迎へ申候。こゝにまた特筆すべきは西校捨取壊しの事に候時の 皇后陛下行啓のもとに開校式を擧げ、殆

四十年に垂んとする光輝ある歴史を有する、我尊敬すべき西校舎は、今や老朽事に堪へずこの理由によりて、こゝに取壊しの運命に遭遇したるに御座候。今やその木材は、恰も護衛者を失ひたるが如くに孑然として立てる講堂前に積んで山をなし居り候。諸姉が感想果して如何。さはれ徒らに悲しむをやめよ。これ我校歴史の四十年が生み出でたる、名譽ある事件に非ずして何をや。しかもまた忘れ給ふ勿れ本校東校舎應接間を訪ひ給はゞ模型として存せられたる、愛す可き彼が風丰に接するを得可き事を。母校が發展はこれのみに非ず、第一第二はたこれが分舎さへ狹隘をつげ、つひに本郷森川町に地を下して更に第三の寄宿舎さへ設けられ候。然れどもこれをして無意味のものたらしめざらむとするは、かかつて我等が双肩にあり、我等が責任亦輕からざる事に候。こゝに悲しさの限りに候ひしは武田先生が御計音に候。先生が本校否世の女子教育のために、數十年來貢獻せられし功績の偉大なることは、

我等夙に欽仰措かざる所に有之候。宜なるかな事天聽に達するや、位を進め、勳章を賜はるること有之候。世を去り給ひしは八月二十九日、御葬儀は九月二日、在京卒業生及生徒は雨を衝いて最後の御訣別致し候。會を開いて我等が追悼の微衷を致ししは九月二十日、今や再びかの温容に接せず、今また新なる涙止めあへず候。○十月 四日には郊遊會として群馬縣金山に遠足いたし候。赤城榛名、さては日光の山々をめぐらし點々たる村落を一眸の下に集むる山頂の風景は今なほ忘れがたきものに候。且この地の新田義貞、高山彦九郎等勤王志士の史蹟に富めるは、諸姉のすでに熟知せらるゝ如くに候。六日、かねてより計畫せられたる購賣部開始せられ候。花の寮階段下に一區劃を施して賣場とし、生徒輪番に事に當り居り、日に好結果を擧ぐるものの如く候。十三日には文科三年生日光旅行有之候。滄々た

六十七

る大谷の流れ、はた黒髪の影響を宿せる湖畔のがめ、さては華嚴の壯觀など、未だ記憶に新なる君達もおはしますべく候。

三十一日は、今上天皇陛下第一回の天長節、學校としては午前祝賀の式あり。先帝を懐ひまつるの情去りあへざると共に一層、新天皇陛下が御代の千代に八千代に榮えまむ事の祈られて我等は満腔の誠意をこの夜の祝賀のまごゐに致し申候。來賓亦非常の多數に候ひき。

加ふるに、奈良女子高等師範學校四年生諸氏の教官數名引率の下に修學旅行の途にあり、時恰も東都に來遊するあり、招いてこれと祝賀を共にし、また歓迎の意をも表し申候。

○十一月

四年生一同は三日よりいよく實習の期に入申候。あるものは高等女學校に、あるものは小學校に、或るものは幼稚園に、各約六週間宛の研究をなすべきに定り候。

八日、文科會開催、こは別欄に委しく候。  
十四日、中島力造先生の告別式行はれ候。ここ

- 一、コチロン 九分
- 二、徒歩競争 十九秒
  - 1 杉本 2 下田 3 尾越
  - 四十四秒 1-2(二回)
  - 1 山野 2 鈴木 3 木原
- 三、デッドボール 二分
- 四、ボルカセリース二分二十五秒
- 五、バスケットボール一分五秒
  - 赤勝(赤の連絡よし)
  - 四十秒(二回)
  - 1 庄司 2 池上 3 渡部
  - 四十二秒
  - 1 石原 2 大石 3 越前
- 七、スプーンレース十五秒
  - 1 植田先生 2 池田先生
  - 3 小此木先生 4 岡部先生
- 八、カドリール 九分二十秒
- 九、ボール送り 二分五秒

- 十、フアウスト 六分三十秒
  - 今日の花なりき
- 十一、仕度競争 二十秒
  - 1 中山 2 和田 3 藤卷
- 十二、器械体操 二十四分四十六秒
  - 心地よし
- 十三、林檎つり競争三十五秒
  - 1 柴宮先生 2 下田先生
  - 3 森先生 4 川上先生
  - 5 近藤先生
- 十四、樵夫競争 四分十五秒
  - 勝負なし
- 十五、徒歩競争 二十三秒
  - 1 山田 2 楠瀬 3 森安
  - 五十五秒
  - 1 三村 2 大島 3 三上
- 十六、バスケットボール四十秒
  - 1 大塚先生 2 永井先生
  - 3 下田先生

に我等は再倫理の師を失ひしに候。眞摯にして温厚なる先生が風事はもはや教壇上に見まつるを得ずなりしに候。  
二十九日は、我校三十九回の開校記念日に候。九時より嚴なる式あり。終つて來賓、職員、生徒、児童、幼兒全体、紀念の撮影をなし、次で幼稚園幼兒より女學校生徒に至るまでの旗行列有之候。紅に八花形白くぬきたる小旗うちふり、湯島丘てふ歌を唱しつゝ、颯々として校内をまねく一巡し、天にもひびけと萬歳を大呼したる愛らしく勇ましき姿は、見せまつらまほしきものに候ひき。  
本校にては午後より如蘭會開催致され候。音樂部の外に、此日の呼びものは、未だ嘗て我校に多く例を見ざる運動會の催しに御座候。朝來寒氣烈しかりしも雨ならざりしは幸の中に數へお可く候。体操服にての運動會、他に例なきものなるべく候。先生方より科學的に行はれたりとの讃辭を得たること、御忘れ下さるまじく候。  
開會午後二時 閉會午後四時三十分

十七、体操

五分九秒

壯快

十八、綱引

三十六秒

赤勝

十九、プロネード

八分十九秒

七十

◎卒業してよりの三年と

八ヶ月

島根縣松江市 湯川 たき

幹事の方から何か書けといふ御通知を頂きましたのは餘程前の事で、其時には何か書いて見たいと思つて直に御受けする旨をお答へしてから最早幾日になるでせう。何でも此十一日頃迄にといふ事が頭の何處かに印されてゐましたので今日は十日、どうしても今晚と心に思ひました。が、明後日は學校で講演會を致します其準備等に追はれて今日も暮れてから歸つたといふ始末、それから今日未だ見なかつた新聞を見て日

誌をつけたら十一時になつて終ひました、疲れた頭でいつその事御断りしようかとも思ひましたけれども、矢張り書きたくつて書きました。此は私が卒業後今日までの生活状態の主なるものだと自分で只そう思ふだけなので御座います。極めて主觀的なつまらないものですけれども、同じい趣味の諸姉に見ていたゞ事が出来たら満足いたします。年度を別けて記してまゐりませう。

明治四十三年度

卒業の當時自分の生活の大なる變化に心を奪はれてをる私には、何事も珍らしく不思議でございました。今迄知らなかつた多くの職員と一緒に生徒を教へてをること、先生とよばれる事、俸給日に鼠色の状態にお金を入れて貰ふこと等一として變な氣のない事はありません。そして現在が虚で過去が事實の様な氣がして、母校師友の痛切なつかしさは殆ど一大苦痛でございました。「一つの野邊に育ちし雲雀」「感謝」「ゆきませ」等の唱歌がいつも胸中に往來してゐ

ませました。

明治四十四年

て、日毎に生徒の唱ふ聲を聞いたり、体操遊戲を見たりするにつけても又ふと小學校兒童の無邪氣な歌が聞えるにつけても、直ぐと胸を貫く様に感じました。來たばかりの時に櫻蔭會員は私の外に三人もあつたのでございましたが、それでも私の心は寂しう御座いました。何時でしたか私が四年の時のお室で一年でもあつた笹原様から春の郊遊會でしたかで稻毛からなつかしい先生の御筆まで添はつての愛らしい御便りを頂いた時には、嬉しいと思ひながらほんたうに泣きました。ごかくする中に學年末にもなつて、卒業式をせねばならぬ時が参りました。式には矢張り感謝を唱ふので御ざいますもの、あゝ此時の心持は御想像に任せます。けれどもそれより私にとつて一層悲惨でありましたのは、寄宿舎の送別會に臨んだ時でございました。どうしても生徒を送り出すといふ氣になれず、自分自身が生徒の様で、しかも同級其他の友もなく先生の影さへ見えぬのに、泣かすにはゐられないではありませんか。極りが悪く俯いてやつとす

夏休みに講習に出ました事、何ともいへぬ嬉しい事でもございました。殆ど休み全体を東京に暮しました。其間に御めにかゝつた先生や友達には、勝手なことを一年間の溜置を一時に口に出しました。さぞ御迷惑であつた事と思ひます宿つてゐた家は四谷で講習は大學でありましたから、遠い上によく大雨に降られましたけれども、そんな事ちつとも嫌に思ひませんでした。講師は佐々先生で同級からは三人だけしか來てゐませんでした。友達の話聞きますと私の生活状態は大へんな相違で御座いました。皆本氣になつて自分の生徒の自慢教育の樂教授法の研究談などで到底側へも寄りつかまされぬ。私は顧みて恥ぢ且恐れ且何となく心細くなつてまゐりました。併し在京中を通しての賜は私の鈍い頭を刺戟して私を稍大人にした事でございました。御蔭で今年の卒業式や送別會には、さ程私の心は悼しくはなく、少しは出て行く生徒

七十一